

平成 31 年 1 月 20 日（日）福島県郡山市のビッグアイ 市民交流プラザ 7F 大会議室にて、東北支部認定指定 A 講座が開催されました。大寒でしたが寒さはそれほど厳しくなく穏やかな日和でした。冬日和の中、61 名の方にご参加いただき、新春の賑々しい会となりました。



特別講演 1 「臨床推論」では、福島県立医科大学 会津医療センター総合内科/循環器内科 病院教授 宗像源之先生より、疾患を診断する過程として、ピシッと分かる時の直感的診断法、だいたい分かる時の仮説演繹法、全く分からない時の徹底検討法のそれぞれの利点と欠点をお話いただき、そこから「症状の O P Q R S T」をもとに確率の高い診断を可能とし、学習しやすい分析的推論をご紹介いただきました。よき臨床家になるための礎を示していただきました。

特別講演 2・3 「鍼灸領域の国際標準化」では、明治国際医療大学 鍼灸学部 鍼灸学科 特任准教授 齊藤宗則先生より、はじめに WHO と ISO における鍼灸関連の概要と最新情報をお話いただきました。専門用語を丁寧に説明していただき、世界における鍼灸の状況を分かりやすく解説していただきました。そして ICD（国際疾病分類）が改訂され、伝統医学の章が加わったことをご説明いただくのに、参加者が実際にスマートフォンでアクセスし、使い方もご紹介いただきました。ぜひ皆さんも“icd.who.int”で検索してみてください。



後半は鍼灸に忍び寄る国際競争の激化についてお話いただきました。大国に引けを取らないために日本が今後取り組むべき方向として、鍼灸臨床を記録し伝統医学の公的データを蓄積することで国内外の理解を得る根拠の形成を行うこと、国際基準に則り研究を実施し世界へ発信すること、などが提言されました。今後の鍼灸を発展させるためには大切で、日本の伝統医療の言語化と発信について、具体的な行動が必要だということが伝わりました。



次回は 6 月 16 日（日）宮城県仙台市 東北大学医学部を会場として学術集会を開催します。多数の方のご参加、そして研究発表、症例報告などのエントリーをお待ちしております。